

## 中期経営計画修正のお知らせ

当社は2019年9月末をもって5年計画の3年度を終了しました。一定の成長を果たしたものの、案件の小型化・高度化によるコスト増やグローバルCROとの競争激化など事業環境が大きく変化し、その対策として国内3事業のさらなる拡大、経営力の高い人材の育成など、事業基盤の強化が急務という認識を強めました。そこで、この基盤強化を優先するために中期経営計画を修正することとしました。下記の諸施策を着実に実行し、持続的な成長を目指します。

### 修正計画達成のための重点取り組み

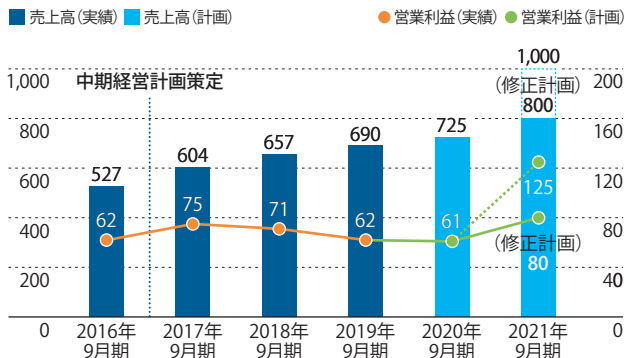
#### 基盤事業の拡大・強化

- 現場と経営層/セグメントとホールディングスが一体となった積極的営業活動
- 現場発の既存サービスの改善と新商品の開発
- グループの強みを活かしたプロジェクトマネジメントの推進
- 現場との連動による予実管理強化
- セグメント経営層の若返りと活力向上

#### 新サービス・新事業の探索

- 開発計画の策定などハイエンドサービスの商品化
- 新規ビジネスモデルの開発
- アカデミア領域における協働ネットワークの構築、治験・臨床研究のデジタル化
- 人材活用による周辺ビジネスの開発・創出
- 事業シナジーを見据えたM&A、資本参加

### 中期経営計画の進捗と修正計画の概要 (単位: 億円)



#### 海外事業の基盤化推進

##### Global Research

- 日系顧客の海外臨床試験の支援体制強化
- 海外顧客、特にベンチャー(含む中国)の日本進出へのサポート支援
- オペレーション、マネジメント体制の基盤化

##### 益新

- 現有プロダクツ事業(医薬品、医療機器)の安定的運営
- 日中ヘルスケア産業をつなぐ「専門商社」進化
- 日中合同マネジメント体制の構築

#### グループ経営体制の確立

- ホールディングスにおける「OneEPS」としての事業マネジメント強化
- 人事制度改革などを通じたコスト構造改革、管理マネジメントの機能向上
- 次世代を担う経営人材の育成強化

SMO

医療機関支援の輪を広げて治験を効率よく――

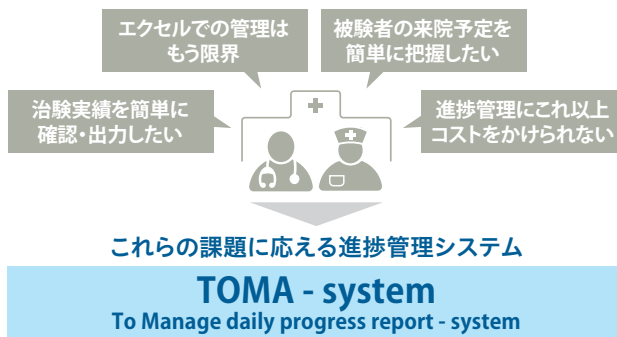
## 医療機関向け治験・臨床研究の進捗管理システムを開発

SMO事業を展開するEP総合では、長年の実務経験から得た知見を活かし、医療機関向け治験・臨床研究進捗管理システム「TOMA-system」を開発しました。2020年1月発売の予定です。

業界最大規模、1,000名の治験コーディネーター体制を誇るEP総合では、治験・臨床研究の稼働状況をリアルタイムで把握・記録できる独自の進捗管理システムを運用しています。このシステムをアレンジした「TOMA-system」は、医療機関において、自ら治験・臨床研究情報を一元管理したいという医療機関のニーズに応える新しいソリューションです。

このシステムを導入することで、医療機関における治

験・臨床研究関連の業務を効率化することが可能となり、医療現場の負担軽減を図ることができます。医療機関の治験・臨床研究参加へのモチベーションを上げ、将来的なEP総合との協業につながる事が期待されます。



NRO

アカデミアとのさらなる連携強化として――

## 慶應義塾大学キャンパス内にサテライトオフィスを開設

臨床研究と医師主導治験を支援するEPクルーズは、臨床研究・治験を取り巻く近年の環境変化を受け、医療機関に対する新しい支援の在り方について検討を進めています。その一環として、臨床研究中核病院※である慶應

義塾大学病院と連携し、2019年7月に慶應義塾大学内にサテライトオフィスを開設しました。これまでCRO事業で培った実務経験を最大限に活かして、同病院にて実施される臨床研究・医師主導治験を支援していきます。

※臨床研究中核病院：日本発の革新的医薬品・医療機器の開発などに必要となる質の高い臨床研究を推進するため、国際水準の臨床研究や医師主導治験の中心的役割を担う病院のこと。医療法に基づき厚生労働大臣が承認する。